

## 平成 28 年度第 2 回拡大理事会開催される

～各部局・支部より近況報告 障がい者スポーツの活動報告も～

平成 29 年 2 月 4 日、福島県理学療法士会事務局において、平成 28 年度第 2 回拡大理事会が開催されました。平成 28 年度を締めくくる拡大理事会となった今回は、下半期ならびに年度内の活動報告が行われ、また次年度に向けた計画や目標も多数報告されました。平成 28 年度に向け情報の共有と方向性の確認が行われた一日となりました。

冒頭に当県士会山口会長より、「自立支援についてリハビリの重要性が高まってくるため、予防、治療、生活期、再発、社会参加の各領域について今後の理学療法士の在り方を県士会として検討していきたい」と挨拶がありました。また続けて、「キーワードとして馬が水を飲みたくなるような活動を」という言葉が強調されました。会長は、この比喻を用い、「県士会として会員が未来に向かって参加したくなるような魅力的な活動をしてほしい」というメッセージを参加者に伝えられました。

同理事会では、定例で行われている、理事会からの報告や部局・委員会からの報告に加え、第 34 回東北理学療法士学術大会の報告や、第 36 回東北理学療法士学術大会が福島県で開催される件、当県士会 50 周年記念事業準備の進捗状況の説明等が行われました。次いで、各支部からの報告が行われました。各支部の特色が色濃く示され、それぞれの支部の現状や今後の課題等について、各代表者が熱心に耳を傾けていました。平成 29 年度の当県士会理学療法士学術大会の企画・運営が県北支部で行われることもあり、同県学会準備の進捗状況も県北支部から報告がありました。「温故知新」をテーマにバラエティに富んだ内容となる期待が持たれます。また、同理事会では、「福島県における障害者スポーツの現状について～今後の理学療法士の障害者スポーツにおけるかかわり～」と題して、桑野共立病院の野村潤氏が、当県における障がい者スポーツの実情と今後の活動における課題等について報告が行われました。関心を寄せる参加者が多く、当県士会としても事業支援を様々な角度から検討していく予定です。

拡大理事会は今後も当県士会として継続していきます。理事会、各部局、委員会、支部との貴重な情報交換・意見交換の場としてより充実できるよう次年度も検討を重ねていきます。

支部担当理事・江井邦夫      会報誌編集委員長・折内英則

